

早稲田大学 教育学部 物理 講評

〔総合分析〕

出題形式	記述式
試験時間	60分
特徴・その他	[I]は例年に比べると易しい問題であるが、II (B)は毎年出題される数学的な色彩の強い問題である。全体としては昨年度よりやや易しくなっている。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
[I]	力学 (壁との衝突、2物体の衝突)	壁との衝突、2物体の衝突の典型的な問題。完答をめざしたい。	やや易
[II]	電気 (電界内の電子の運動)	(A)は電界内の電子の運動の典型的な問題で、完答をめざしたい。(B)は今までにない新しい設定を誘導に従って数学的に解析させるという本学部の頻出パターンの問題である。	標準

〔総合コメント〕

本学部の問題の特徴は、あまり入試に出題されたことのない設定を数学的に解かせるというものである。受験対策としては、標準的な入試問題は確実に解けるよう問題演習をした後に、本学部の過去問や他の難関大学の数学的な問題の演習を通して、数学的な色彩の強い問題を解く能力を養うことが重要である。